# グローバリゼーションと地域産業の変容
## ―陶磁器の生産・流通をめぐる関係性の比較分析―

早稲田大学　太田　有子

**1　目的**

本報告は、グローバリゼーションに伴う地域の産業の変容を改めて捉え直す試みである。日本の陶磁器業に焦点をあてて、長期的な視野で越境的な交流を通じた地域産業の変容を分析する。日本の陶磁器業の生産・流通をめぐる関係性を中心に分析し、既存の関係性および生産・流通体制の変化について報告する。陶磁器業に注目する理由として、日本の陶磁器業は、越境的な交流活動に伴う流通ネットワークの拡大を通じて世界諸地域に流通し、発展した産業であることがいえる。グローバルな交流を背景に、複数の地域で発展した陶磁器業について、工業化の社会的背景や要因について多層的な視点から比較分析を行うことで、日本の工業化に関する既存の評価をはじめ、グローバリゼーションに伴う地域産業の変化をめぐる議論についても改めて検討する。

**2　調査方法・分析**

陶磁器業の発展した地域として有田地域、名古屋・瀬戸地域における陶磁器業の生産・流通をめぐる関係性について比較分析を行った。有田地域では、行政による財政・制度的支援による技術導入、工業化が進展したのに対して、瀬戸・名古屋地域では、民間資本を中心とした緩やかな生産体制の変化が見られた。いずれの地域においても海外市場対象の生産が漸増したが、その過程における主体が異なっていた。陶磁器の生産・流通・消費をめぐる関係性の分析を通じて、陶磁器をめぐる既存の関係が新技術導入や資本調達の規模等についても影響しており、グローバルに流通が拡大する過程における地域間の相違点をはじめ、各地域の工業化の地域的特性が明らかになった。

**3　結論**

長期的な視野で地域間交流に伴う地域産業の変容の過程とその影響について分析を行い、グローバリゼーションの動態を相対的に捉えることを試みた。日本の陶磁器の生産・流通・消費をめぐるネットワークがグローバルに拡大するなかで、既存の関係性の変化とともに地域間の相違点が明らかになった。陶磁器業の工業化の過程は、主たる担い手や要因、さらに海外市場との関係性の形成などの点において地域によって異なっていた。グローバリゼーションに伴い、地域の産業は既存の生産工程・部門の統合や産地移転などの変化を余儀なくされるものとして理解されているが、必ずしもその過程は一律ではないといえる。陶磁器の生産、流通に関わる資源の管理や分配に関与している様々な社会集団の関係性において、グローバリゼーションは、必ずしも既存の生産関係を序列化し、一方的な改編に終始するものではなかった。既存の生産・流通をめぐる地域の状況に応じて、革新的な技術導入よりも既存の生産関係の緩やかな変化が生産力の向上・持続的な発展に結びつく事例や地域間の相互作用による変容が生じる場合も見られた。グローバリゼーションに伴う地域産業の変化の様態は、各地域の状況に応じて多様な展開を示していたことが明らかになった。